

令和5年度 第4回白井市市民活動推進委員会（全体会）

日時：令和5年8月29日（火）

午前10時00分～

場所：白井市役所東庁舎1階 会議室101

-----事務局説明-----

○委員長 ありがとうございます。今日は、主な議題といいますか、論点がこの補助金の追加ヒアリングを受けてどうするかというお話なので、まずは、このヒアリング調査について、御質問とか確認したいことがあれば、1回伺って、その後、その追加ヒアリング調査を受けて、この補助金の在り方についてどうすべきかというところを議論できればと思います。

まず最初に、今、御報告のあった追加ヒアリング調査についての確認とか、御質問があれば、お伺いしたいと思います。どなたか、いらっしゃいますか。

●さん、どうぞ。

○●委員 2点お願いしたいのですが、まず一番上の欄ですけれども、もし可能でしたら、この最初とそれから真ん中を除いて、一番最後のこの2点につきまして、どちらの団体か、もし差し支えなかったら教えていただけますか。

○事務局 団体の方に確認をしないとという。29日の日に、今日ですけれども、使わせていただきますよというのは御了解を得ているのですけれども、団体とかが如実に出る形で出すようなお話をさせていただいておりませんので、御自身が発したことが、どの団体で、それを委員の方にお伝えをしていいのかというのを、もし必要であれば、確認をさせていただく時間は頂きたいなというふうに思うのですけれども。

○●委員 では、結構です。この要望は取り下げます。

もう1点ですが、次の項目の助成金は何に充てたいかというところにちょっと絡むのですが、下から2番目の活動維持費として使えるとよいという希望があるのですが、私が所属している協会は、市から委託されている行事、もしくは、例えば教室なんかは、本来なら、市が絡むような行事をやっている行事につきまして、毎年、補助金ないし委託金を出していただいているのですが、市からそういう補助金とか委託金を出すに当たって、何か基準というのがあるようでしたら、教えていただきたいのですが。

○委員長 それは、この補助金についてではなくてですか。

○●委員 はい。

○委員長 それは多分、聞かれても分からないと思うので。

○●委員 そうすると、市からの補助金を、どういう行事だったら申請できるかというの

が分かるので、それをちょっとお聞きしたかったんです。補助金を出せる基準とか、こういう活動には、補助金、予算がつけば、承認されればということですけども。

○委員長 この委員会の性質上、御自身の団体でどうこうという話ではなくて、あくまで、この市民団体活動支援補助金をどうすべきかというお話なので、今の御質問の趣旨が、御自身の所属団体がもらえる補助金についてということであれば。

○●委員 そうではなくて、例えば、活動維持費として使うとよいということは、それを毎年継続して補助金を頂くといいというような解釈に取れるわけですよ。そうすると、市にそれを申請したときに、例えば、こういう活動をしていけば、予算申請の検討に値しますよというのが言えると思うんです。

ただ、その団体の維持費に相当するものについては、一切、市としては補助金は出せませんということでしたら、この内容はまるっきり却下になってしまうわけですよ。

○委員長 分かりました。何か統一的に、市のほうで通則的な、例えば、いわゆる外郭団体とかには出ているわけですよ。補助的なお金というところで言うと。何かそういったもので、いわゆる事業助成ではない形の補助について、今お分かりになる範囲内で基準等があればということですけども、お分かりになりますか。分からなければ、分からないで結構です。

○事務局 詳細なことまでは、もちろん分からない部分もあるんですけども、●さんが先ほどおっしゃっていた国際交流協会については、市のほうで、委託金としてお支払いをして、恐らくそういった形で事業を実施している。今現在、他課のほうになりますけれども、いると思います。国際交流協会については、以前は、同じように補助金で、恐らくそのような形でやっていたと思うんですけども、どういった形で、それが委託金になったのかというところは、細かいところまで把握はしていないところもあるんですけども。

補助金という形ですと、当然、団体がやっていることに対して、市が補助金をするという形だと思うのですが、委託ということになってまいりますと、当然、その内容を実施する事業を、市が本来やるべきものをほかの団体をお願いをするという形になるかと思っておりますので、今現在、協会さんをお願いしている委託事業については、市がやるべきものだろうという判断をして、委託金として、団体にその事業をお願いしているものということで、私どものほうは理解をしておりますが、いかんせん担当の部署ではないので、細かいところまでは正直把握していないという状況でございます。以上です。

○●委員 ありがとうございます。活動維持費として使えるような項目で申請するのは、非常に難しいのではないかなと私、考えておりますので、その方策として、ちょっとお聞きしたかったので質問させていただきました。大赤字の。

○委員長 ありがとうございます。補足させていただくと、私からすると、資料2の助成金は何に充てたいかの3ポツ目のお話だと思うんですけども、呼び方として、この方は、口頭ではこういう御発言だった。それを文字起こししたから、こうなっているとは思いま

すけれども。

支援受付の携帯電話通信費は、うーんという感じもしますから、チラシ印刷費とか、コロナ対策の衛生管理費とかは、活動維持費というか事業費ですので、別にこれは普通に補助金申請していただければ出るお金だと思いますから、そういったことが伝わっていないということがむしろ問題なのかもしれませんけれども、申請が来れば、別に出る事業費なのではないかなという気持ちは持ちました。いわゆるNPOの世界でいうところの管理費ではないだろうかと思いました。

ほか、いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 5団体、補助金が必要であると回答されて、ヒアリングを追加で受けられたのが4団体なのですが、残りの1団体は、必要だけど、追加のヒアリングの日にちが合わなかったのですか。それとも、別にそこまで詳しく聞いてほしいわけでもないという感じだったのでしょうか。その辺りを聞きたいです。

○事務局 お答えをいたします。アンケートを取った際に、問いの24、アンケートをお持ちでないかと思しますので、読み上げさせていただきます。

問いの24のアンケートが、今後、今回のアンケートを踏まえ、さらなる調査や場合によって対面でのヒアリング等に御協力いただくことは可能ですかというような質問をさせていただきました。

今、御質問いただいた1団体については、ここで「いいえ」というような御回答を頂いておりますので、その「いいえ」に御回答頂いているのに、無理にお越しをいただいて、お話を聞くというのは難しいのかなというような判断をし、お声がけをさせていただいていないというような状況でございます。以上です。

○委員長 協力するよと言った団体は、100%協力してくれたということで。

○事務局 そうですね。逆を申し上げますと、そのほか、「はい」というお答えを頂いて、かつ、お声がけをさせていただいた。快くお越しをいただいて、それがこの4団体であったというような状況でございます。以上です。

○委員長 感謝感激ですね。ほか、いかがですか。

●さん、どうぞ。マイクを使って、すみません。

○●委員 まちサポへの要望・提案の中で、多目的スペースの活用で空いている日が多く見られるとあるのですけれども、今までの統計で、どのような使用状況というか、空いている日が多く見られるという印象になってしまうのは、実際に使われていないということなのか。その辺のところ、何パーセント使われているとか、去年はとかあれば教えてください。

○委員長 お分かりになれば。そういう印象を答えられているのは、事実としてどうか、稼働率とか分かりますか。大体でいいです。

○事務局 まちサポのほうから、お答えさせていただきます。今現状で、何パーセントで数字を持ち合わせていないので、ここではお答えできないのですけれども、施設によって使われている稼働率が高い場合、低い場合がやはりございます。

秋以降、9月、10月、11月になりますと、かなり稼働率は高くなるのですけれども、今現状の夏、7、8月等は、かなり数は少なくなったりしているような状態がございました。

そして、全体をおしなべて見ますと、五、六十%ぐらいの稼働かもしれません。これは、かなり印象として申し上げていますので、きちんとした数字は、またきちんと報告しなければいけないのですけれども。団体の方が見たときに、結構空いている日が多いかなというような印象を持たれたのかなと思っております。その意見を受けまして、私ども、今、対策を練っているところでございます。以上になります。

○委員長 ありがとうございます。ほかは、いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ●です。一番上のこれまでの助成金活用実績というところの「立ち上げの時から、市の担当課より補助金をもらい、活動維持費に充てている」というのがあるのですけれども、この具体的な団体名さんとかは言えないと思うのですけれども、補助金は、毎年もらっている補助金とは、どういう補助なのか。

○委員長 少なくとも我々のものではないのだろうなと思うのですが、別の課の補助金ということですね。それが、もし特定されかねないというか、思うのですけれども、何か分野とか、難しいですね。団体名は出てしまっていますからね。お任せします。どこまで言うかは。

○事務局 お答えをいたします。まず一つ、委員長がおっしゃられていたように、市民活動支援課の担当、掌握している補助金ではないというのが一つと、あとは、実際に補助金というふうに言ったのですけれども、助成金とかその辺りを団体の方々がしっかりと御認識されているかどうかというのも、ごめんなさい、何しろ裏取りとかをしていないので、もしかしたら補助金でないのかもしれないので、そこは、すみません。

本当は、そういうのを確認して載せなければいけない部分なのかもしれないのですけれども、こちらは、あくまでヒアリングを取らせていただいたときに、このような補助金をもらってというような御回答だったので、そのまま記載をしているというような状況です。

○委員長 というようなことで、先ほど、私も個別に意見頂きましたけれども、団体さんの口頭でのコミュニケーションの言葉としては、補助金だとか活動維持費とおっしゃいますけれども、それが本当に一般的な言葉でいうところの補助金なのかとか、いわゆる管理費的なものなのかというのは、そこまで精査できていない状態の文字起こしに近い形のペーパーだということで御理解いただければ。

あとは、皆さんのほうが読まれるときに、もしかしたら事実関係の確認までは、まだ終

わっていないというところで見ただけならばと思います。ありがとうございます。
どうぞ。

○●委員ありがとうございます。前の質問とかぶると思いますが、柏のパレット柏と、白井のまちサポの比較的な話題が出ていました。多目的スペースの活用についてということなのですが、今、私もウェブサイトを確認したのですが、パレット柏は、多目的スペースというのと、それからオープンスペースという二つあるのですね。

どちらのことかなというのは気になったんですね。当日のヒアリングのニュアンスがないと分からないのであれなのですけれども、オープンスペースのほうは無料で、いつでも交流したり、打合せができるというスペース、多目的スペースのほうは、予約なりをしてディスカッションをするような、そういうスペース。

白井市も、共有のスペースと多目的スペースという二つがあって、共有スペースのほうは、交流コーナーとかで予約不要で無料で様々できるんですかね。その一方で、多目的スペースのほうは予約をして、経費がかかりというような、そういった感じなのですけれども、どちらのことを言っているんですかね。これは、交流スペース、交流コーナーとか、柏で言うと、オープンスペースのことなんでしょうか。

○事務局 団体の方のお答えがどちらかはっきりはしなかったので、私も現場を見させてもらってきたのですけれども、恐らく無料の交流スペース、柏にあります交流スペースといえますか。

○●委員 オープンスペースのことですね。

○事務局 オープンスペースのことをおっしゃっているのかと思います。発言のニュアンスとしては、活動プラザの中で、皆さんがフリーで利用できるオープンスペースのことをおっしゃっていましたので、そのようなことかと思います。

そうした意味では、私ども、まちサポの多目的スペースの扱いとは違うのですけれども、確かに、柏のように自由に交流できるような人が集まるようなスペースとして、まちサポとしても、どのようにしていけばいいのかを考えていく必要があるのかなといったことは、課題としては受け止めております。

○●委員 ありがとうございます。多分そこら辺のところは、非常に大事な問題なのかなというふうに思いました。以上です。

○委員長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。よろしいですか。ありがとうございました。

忘れないうちに言っておくと、このヒアリングとか、まずちゃんと実施していただいたことは素晴らしいことなので、私としても感謝を申し上げたいと思いますし。あと、ただ、ヒアリングとかアンケートとかというのは、やっておしまいではしようがなく、ヒアリングで出た御意見とかを、もちろん全部は反映できないのですけれども、できることは反映させていかないと、私としては、こんなにいっぱいいい意見が出たこと自体が素晴らしい

ことだろうと思っています。

市に言っても、サポセンに言っても、まちサポに言っても、何言っても無駄だと思ったら、こんないちいち意見を言ってくれないですから。意見を言ってくれるだけ、まだ見捨てられていないというか、期待しているということですから、市とまちサポさんに。

ですから、変えられるところは変えていくとか、受け止めることは、しっかり受け止めて、もちろん全部はできないけれども、皆さんの御意見を受けて、こう変わりましたとか、よくショッピングモールであるお客様の声の店長への御意見を受けて、例えば、チョメチョメさせていただきましたとか、そういうことのキャッチボールが続いていくと、言ったら、ちゃんと対応してくれるんだと信頼感が生まれてきて、僕らも、まちサポの運営に協力しようとか、市のこういうことを頼まれたらやっていこうという、いい流れになってくるのかなと思いますので。これが、せつかくアンケートにも答えても、ヒアリングでやっても何一つ変わらないとなってくると、これ、学習性無力感に陥って、何言っても無駄だから、いいやみたいな感じになってしまうのは、もったいないので、非常に。

ですので、先ほどセンター長さんも言っていたとおり、1個でもできることは変えていくという視点で、取りあえず、この調査結果を読んでいただければと思いました。

次の議論が、そもそもこの追加ヒアリング調査をやった目的としては、補助金制度をどうするかというところの資料とするためだったということがありまして、では、年度末に取ったアンケートと、この追加ヒアリング調査を受けて、補助制度をどうするかというところに移っていきたいと思います。

まず、これについての事務局のお考えをお聞きしてもいいですか。

○事務局 お答えをさせていただきます。事務局といたしましては、以前の会議でも少しお話をさせていただきました補助金が活用されない、今の制度になってから6年たっているというようなことで、補助金をより簡単に活用していただくためには、要綱等を変え、金額とか、極端な話、回数とかを変えていくようなことをすることで、補助金の活用が期待できるのではないかというような仮定から、この委員会でもいろいろと御検討いただいていたところなのですけれども。今回までの追加のヒアリング等を見ても、補助金の金額を変えたりだとか、あとは回数を一部、今回も意見としてございましたが、全体としてみると、そういったものを変えるというよりも、まちサポを含めた団体へのサポート等を団体は欲しているのではないかというような御意見等のほうが多かったような印象を受けております。

したがいまして、今回、昨年10月から1年ほどかけて検討をしてきているところではあるのですけれども、令和6年度につきましては、何も結論ありきで変えて、新しい要綱で補助金制度をスタートさせるというのではなく、令和6年度に関しては、今までどおりの要綱で実施をさせていただき、今後の見直し等につきましては、まちサポでの、今、委員長のほうからもおっしゃっていただいたような、こういったヒアリングなどを繰り返

し行っていき、その中で要綱等の改正が必要であるというようなことを判断させていただいたら、また皆様にも御意見等を伺い、改正をしていくといった流れのほうがよいのではないかなと。

ですから、今後も継続して、この補助金の制度については検討していくのですけれども、令和6年度、次の補助金要綱については、今までどおりの要綱で実施するのがよいのではないかなという意見が今のところの事務局の案でございます。以上です。

○委員長 ありがとうございます。ということで、事務局案としては、取りあえず来年度はこれまでどおり、もちろん微修正といいますか、先ほど言ったとおり、自分で言うておいてあれですけれども、幾つか、例えば書類の関係とか、簡素化といいますか、少しでもできることは対応したいと思うのですけれども、大枠の例えば促進型と発展型とか、それを全部1個に統合してしまうとか、そういう大掛かりな改修作業は来年度はせずに、現行のまま来年度をやってみる。

とはいえ、では、全く変えないでいいのかということ、昨年度の採択団体さんとか、今回も意見がないわけではないわけですから、それをもうちょっとしっかり調べて、現場の団体さんのニーズに合った補助制度についての調査研究を進め、継続するという案だということですね。

これについて、先ほどのヒアリング調査も受けて、一定の方向性を今日出さなければいけないので、皆さん、御意見があれば伺っていきたいと思います。いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 事務局の御提案に賛成します。補助金については、申請するには、相当、申請する段階からスキルを要求されているのは間違いないと思いますが、そのスキルを超える団体に、そのスキルを持っている団体に補助することが、非常に意味がありまして、それを、ただ、そのレベルは下げると、また問題が出てくると思うのですよね。

だから、そのスキルを持てるようにいろいろサポートしていくのが必要ではないかなと思ひまして、このまちサポへの要望・提案を見ますと、すごいまちサポに、皆さん、団体さんが期待するというのが読み取れますので、そちらを生かして、団体をサポートしていくという方向がよろしいのではないかなと私は考えております。

○委員長 ありがとうございます。この件については、全員の御意見を伺いたいと思いますので、まず自発的に。

○●委員 はい。

○委員長 ありがとうございます。

○●委員 ●でございます。この追加ヒアリングについては、先ほど確認すればよかったのですが、この4団体は、恐らくここ数年は、この補助金を使われていないところなのかなというふうに推測しております。

それと、この市民活動の補助金を使って、いろいろと報告ですとか、ヒアリング、プレ

ゼンとかという話を聞いていく中で、補助金を使った団体さんは、その金額が減ってしまうとか、何年で終わりだよということがあると、なかなか継続しがたいよという団体さんの意見が多かったのかなというふうに私は思っているんですね。

今回、ここで回答された方は、いろいろな理由があって、補助金のほうはここ数年申請していないところなのかなというふうに思っているのですが、補助金の内容をどういうふうにしていこうかという話と、あと、まちサポの機能としての調査研究を継続していく。これは、ちょっとまた別物なのかなという感じはしています。

先ほど、●委員のほうからおっしゃっていたように、活動しているから全部お金をあげるというのではなくて、ある程度のスキルを持っている団体に補助金をとということで、私も納得はしておりますが、かといって、その補助金に至らなくても一生懸命やっているところはあるでしょうし、その方たちも、自分たちだけではなくて、どうしても自分たちだけだと頭打ちといいますか、どういうふうに自分達の活動を継続していこうかというの、やはり悩ましいところだと思いますので、似たような活動団体をしている、先ほどの意見にもありましたけど、市内だけではなくて、他市のところとかともマッチング等しながら、それぞれの自分たちの活動団体を発展していくというお手伝い、お手伝いと言ってもいいのか、そういったところの手助けをまちサポのほうで、研究・調査というところで担ったほうがいいのかというふうに思っております。事務局の意見については、そのとおりでなというふうに思っております。以上です。

○委員長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○●委員 ありがとうございます。大筋は、その方向でよろしいのではないかなという印象です。

ただ、今回、これまで年度の初めから、ずっとこの話題をしてきたかと思うのですがけれども、今回の追加のヒアリングまで見て、二つぐらいの割と明確な課題といいますか、論点が出てきているかなというふうに私自身は思っているんですね。

一つは、補助金の継続の問題です。今年の審査会でも、やや印象的だったのですがけれども、回数制限で今回で終わりなのだけれども、来年からどうしようみたいなことなんか話題として出ており、結構、深刻な課題だなと思いつつながら、私も聞いておりました。

ここで、数字的には5年間の継続補助が望ましいとか、何とか継続をしてもらえないかという、そういった要望は、割とあるのではないかなと思うんですね。ですので、これは多分、ケース・バイ・ケースで認めてもいいようなケースもあるのではないかなというふうに私自身は感じております。

したがって、今は、回数を厳格に何回までというふうに順守するような形で運用されていると思うのですがけれども、原則的にはそうなのだけれども、団体の発達状態によっては、特例的に認めてもいいというような、そういうケースもあるのではないかなと思います。

そういったものに関しては、別途、審査するような、そういう制度的な道筋も考えてもいいのではないかなと、そういう印象を持っております。

様々な多分、規定だとか改定も必要になる案件かもしれないので、来年できないかもしれませんが、そのことに関しては、継続的に検討を続けてもいいのではないかなという意見です。それが一つです。

二つ目は、先ほど来、出ているまちサポの関係なのですけれども、私も当初から意見を述べさせていただいていたかと思うのですけれども、連携支援、連携機能の話です。要は白井市の活動団体が様々な存在をし、活動を展開しているという中で、1団体だけではなくて、複数の団体で連携していくということをもっと支援していくという、そういった要望が、かなり追加ヒアリング調査にかかわる資料2の二つの枠では、まちサポへの要望・提案とか、その他意見・要望では、割と明確に出ているかなと思うんですね。

まちサポへの要望・提案のほうでは、連携支援について、市民団体だけではなくて、企業とか事業者、そういったところとのつなぎなんかも持ってやってもらいたいとか、同じ項目の一番下のところでは、人、関係性・アイデアとか、関係機関との積極的なつながりを行ってほしいといった話とか、それから、その他の意見・要望では、小学校区で区切るのではなくて、テーマ別につないでもらいたいみたいな、いずれも同じ話題の延長線上かなというふうに私自身は捉えています。

ですから、そういったことを促進していくような、そういう補助金の在り方もあっていいかなと。つまり、複数の団体で連携・協働していく。そういうタイプの取組に関しては、それを促進していきたいので、この別枠の金額を設けて補助するなり、助成していきますよという、そういうタイプの補助項目の追加があってもいいのではないかなと。

これは来年でなくてもいいと思うのですけれども、団体同士の連携のニーズが増えてくれば、やはり検討して、中長期的には、再来年とか考えればいいと思います。その前段で、先ほどもちょっとお話がありましたように、まちサポの機能の充実という点では、この連携・協働をファシリテートするような、コーディネートするところの取組というのをぜひ、今年、来年と強化していただいて、ニーズが団体間で生まれてくれば、そういう補助金を補助項目を追加して、さらに財政面でも促進していくということが、白井市の市民活動を次のステップに展開していく際に有効なのではないかなと思うんですね。

まちサポのほうに、あとは、ちょっと余談になるのですけれども、この連携・協働をファシリテートするというのは、かなり大変なんですね。情報をかなり収集しなければいけないし、かなり対面で団体間の人間的な様々な機微も含んだ調整なんかも発生すると思います。かなりこれは手間なので、まちサポ単体でとてもやれりきれない気がしているんですね。

私もそういうような取組のNPOに関わったことがあるのですけれども、どういうふうにやっていくかということ、参加主体の登録団体であったり、一般の市民だったりに参加

してもらって、協力してもらいながら連携支援というのを構築していくというのが、原則なのではないかと思えますね。

だから、情報収集だったり、人と人との関係性をつないで組織化を図っていく際に、あるファシリテーターだけに負担がかかってもうまく回りませんので、そういういろいろな仲間を、そういう連携・協働を進めていくための仲間づくりみたいなものを、今の登録団体で関心を持っている、自分の団体だけではなくて、そういったいろいろなところをつないでいくような、そういうタイプの関心を持たれている団体もあるかと思えますし、活動者もいらっしゃると思うので、そういったところにお声がけをしていきながら、対話型で、協働・連携の関わってもらえるような方々を増やしていく。そういう組織化の在り方も必要かなと思えます。一番最後のところは、ちょっと余談でした。以上です。よろしくお願ひします。

○委員長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

●さん、どうぞ。

○●委員 この補助金の問題は、この制度の本質的な問題だと思うんですね。補助金の額、それから期間、選定法、この文書にもありますように、5年間の継続補助が望ましいとか、年数を追うごとに補助割合を下げては、パフォーマンスも下がると、これも分かりますけれども、これは本音であり、もらうほうとして見れば、そちら側からは、こういうような意見というか、かなり甘えの面もあるのですけれども、しかし、それは、もらうほうは市民であり、また、出すほうも、市が出しますけれども、その裏には市民が出すわけですから、当然、この矛盾があるわけです。

この団体、ずっと私たち審議をしてきましたけれども、ほとんどがこれは永続的に活動を予定しているもので、例えば3年で終わりとか、5年で終わりという活動ではありません。したがって、永続的にやっている活動に対して、何年間という期限を区切った補助金制度ですから、それ自体が矛盾があるわけです。

恐らく、この市のほうの方針としては、できれば補助金を一定の条件の下にあげるから、あとは一本立ちしてほしいと、そういう意味合いもこもっていると思うんですね。いわゆる枯れた井戸に水を与えて、あとは自分で飛躍してくださいと。ただ、これは、言うは易く行うは難しで、あるいは企業の寄附とかいろいろ大変です。

しかし、そういうふうに決めないと、こういうふうな交付申請するのは、次から次へと来る可能性があるのと、機会均等のチャンスを与えないと、公平性が担保できませんから、そうすると、どんどんどんどん来て、それは財政的にも限度がありますから、やはり一定の額、一定の交付期間というのは、この補助金制度がある以上は、本質として仕方ないと僕は思うんです。

これを分かった上で応募をすると、もらうと一旦は助かりますけれども、終わったらどうなるんだという不安は分かります。しかし、この制度を前提に受け止めた以上は、それ

を乗り越えなければいけない。はっきり言って、言うのは簡単ですよ。

こういうふうにやらないと限りがあるので、その代わり、●委員がおっしゃったように、終わったら、何らかの延長の機会を一定の条件の下につくると。例えば、敗者復活戦ではなくて、終了者復活戦のような格別な審査をして、3年か5年か分かりませんが、額はまた同じかどうかは別にして、そういうようなものを作って、一つの希望を与えてあげたほうが、やる気を増進させるのではないかと、そういう気もしないではないです。

いずれにしろ、この補助金制度は、期間、額等については、この制度の本質的な問題ですから、これを議論して、一旦決まった以上は、これでスタートせざるを得ないと私は思います。

○委員長 ありがとうございます。ほか、いかがですか。ぼちぼち指していっても、よろしいでしょうか。ですので、順繰りにお聞きしていきます。

●さん、お願いします。

○●委員 難しい問題ですねと思ってしまいました。来年度は今のまま、大きな改正はなく、やっていくという案に関しましては、そのとおりでと思います。今、決めて、新しくどうのこうのという、そういうスパンではないと思うので。

少し気になったのが、この検討調査というのが、私、今まで国社研とかでしか聞いたことがなくて、まちサポさんという、ぶっちゃけ、そういう団体さんぐらいな、人数もそんなにいらっしゃらない中でやっていけるのかなと、初めからちょっと思っていたのですけれども、今回、このお話があって、すごくまちサポさんへの負担は大きいだろうな、その分、期待も大きいのですけれども、大きいんですよ。

でも、この段階でアンケートを聞いたときは、市の直営だったから、いろいろなことを言えたのですけれども、今の段階では、市は主管されてはいますけれども、指定管理になってしまいましたよね。どこまで私たちはこれを言っていけるのだろうかということが、ちょっと不安と言えば不安、何かよく分からないのですけれども、そんな感じでおりました。

団体さんは、70、80が現在活動しているメンバーだよというところ、すごい多いと思うんです。何でかという、生きるために働かなければいけなくて、70定年になってしまって、それが終わって、地域のために活動していこうと思う人たちは、大体それぐらいの年代の方が多いですね。

なので、そういうお金的な補助もそうなのですが、新しい、新しいといったらあれですけれども、若い方々、今、職を持って働いている方々でも、地域で何か活動ができるようなイントロダクションみたいな何かがあったらいいななんて思いました。以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続いて、●さん、お願いします。

○●委員 ●でございます。皆さんの御意見を聞いていて、本当に考えることが多いなと

思います。

今、●委員のほうからも出たとおり、先ほどのヒアリングでの資料で、活動における課題や悩みといったところでは、書類の作成が難しいとか、それを作れる人が、担い手がないとか、そういったものも高齢化によってなのかなと思っていて。活動しているメンバーの10人は、70から80代だったりとかということで、この市民活動を行っている、ボランティア団体を取りまとめておりますが、そこでもやはり高齢化の問題というのは出ていて、これは避けて通れないのかなと。

やはり生産年齢、60歳、今、●委員が言ったように、それが今、経済の状況が厳しくなって上がってきていて、70ぐらいまでの人、主には60歳ぐらいまでの人というのは、仕事だったり、家庭だったり、そういったことで時間に追われることが多くて、なかなか市民活動に参加しづらい状況にあって、やっと時間が取れて、ゆとりが取れる、自分の経験を生かせるといったところが70代ぐらいになって、60代から70代ぐらいになってしまうのかなといったところで、これはやむを得ないところもあるかなと思います。

ただ、それでいいのかというと、そうではなくて、市民活動はやはり若い人から取り組んでもらったほうがよりいいとは思っているので、例えば高校生、中学生、小学生に対して、福祉教育とかで福祉の啓発をしつつ、そういったきっかけで社会参加、市民活動につながってもらったらいなという思いでおります。あらゆる場において市民が参加できるといったところでは、この補助金というのは有効な手段だと思います。

ただ、私はこの委員になって感じたのは、例えば補助金の額、採択の額は、今は比較的低いところから大きいところまであって、低い額で支援申請している方に、委員の前で補助金を申請したという趣旨だったり、そういったのも発表してもらう場がありますよね。ヒアリングの。

そういったところは、例えば金額が低いところ、その金額は幾らというのは、ちょっと今分からないのですが、事務局のほうで、ある程度審査してもらって、それを委員のほうに報告という形で、事務局審査という形で、少額の方はここにお越しいただかなくても採択されますよという仕組みも一つあったらどうなのかなと、勝手な、今、思いつきです。

なので、少し簡便に審査が通るような形にするには、そういった方法もあるのかなとちょっと思っていました。まとまらないけれども、以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

続いて、●さん、お願いします。

○●委員 ●です。今、皆さんが言われたことがほとんどなので、私の意見としては、別に特に追加でというのはないのですけれども。

ただ、七、八十代が多いというのは、先ほど●委員が言われたように、ちょっと時間のゆとりができて、ほかの活動ができる、仕事以外の活動ができるというところが、この年代以上か、もしくは、お仕事をメインにされていない家事専業の方たちとか、高校生とか、

その辺りになってくるのかなと思うので、そもそも申請をやはりできづらい、やりづらい人たち向けに変えるしかない。

そこがやりやすい、書類一つとっても、書ける人がいるから申請できているんだよという団体がいるということは、誰でも書けるような内容にしてあげないと、実際こういうふうにやってくださいね、分かりましたという世代というのは、多分、今、市民活動をする世代ではないんだと思うので、そこはちょっと根本的に変えないと駄目なのだろうなというのと。

この活動における課題や悩みのところで、補助金申請に興味をもつ会員が少ないというのが意見としてあったので、お金を必要としていない団体もあるんだなと思ひまして、なので、そこに関しては、今回の委員会は、補助金を出しますよというような内容の委員なので、あれなんですけれども、補助金以外のことのところをまちサポさんとかに求めている団体さんがやはりいらっしゃるんだなという印象を持ちました。特にまとまりないのですけれども、以上です。

○委員長 ありがとうございます。一応補足しておくとして、追加ヒアリングについては、必要という団体に聞いているので、多分この方のニュアンスを私が推測すると、お金は欲しいのだけれども、補助金は必要なのだけれども、我々もそれなりにペーパーを求めるわけではないですか。

だから、助成金申請は基本的に裏方仕事で、よくNPOである、私、環境系だったので、グリーンレンジャーさんみたいな環境系のNPOで、何がやりたくてボランティアするかというと、それは環境保全したいから来るわけですよ。木を切ったりとか、草刈りしたりとか、子供たちと遊んだりとか、私たちは井戸掘ったりとかしてはいたけれども、上総掘りで。

それをやりたくて私もボランティアしているわけで、領収書のチェックだとか、助成金の申請をパチパチ作るというのは、私もやりましたけれども、代表の手伝いで。それは、そういった人、基本的に現場の仕事をやりたくてボランティアとか来るから、なかなか、お金が必要なのだけれども、この助成金の裏方仕事をしてくれる人がいないみたいな、その愚痴というか、ぼやきに近いことなのではないかなと。

別にこれは、この団体さんだけではなくて、NPO、市民活動、一般に言える話で、だから組織基盤が脆弱で、これ悪循環なんですけどね。結局、誰かが会計とか報告書類とかを書かないと、お金がもらえない。そんな甘くないですから。お金がない、お金がないから人が来ない、人が来ないから、お金が取れないみたいな、ぐるぐる借金のスパイラルみたいになってしまうのですけれども。

それをどこかで切って、ステップアップしていただくためには、まずは、まちサポさんのサポートも必要でしょうし、我々もなるべく団体さんに寄り添った審査とか、例えば申請書類も、難しい日本語ではなくて、なるべく簡単にするとか。今後の日本においては、

多分、多言語対応とかも、いずれ必要になってくるのではないかなという気もしますけれども、そういった寄り添いは必要だろうなというふうに、まずこちらのチームのお話を聞いて思いました。

どうぞ。

○事務局 今、委員長に言っていただいたようなとおりで、本当は誰々さんに頼みたいところなのだけれども、そんなことを頼んだら、もう辞めると言われるというような、そこはさすがにここに載せられないので。そういうのがあって、大体、代表の方がこのヒアリングに出てくれたので、代表以外の方、仕事が分配されるようにというのですか、ですから、補助をとくと、この人にやっていただきたいんだけどというような思いは、代表の方はあるみたいなのですけれども、ほかの人に任せるとなると、アレルギー反応を起こされるというような、そのようなことを言っておりました。

○委員長 そうなんです。先ほど●さんもおっしゃっていましたが、でも一方で、オフィスワークが得意な人もいらっしゃるわけですね。長年、企業で経理をやっていましたとか。この委員会にも、公募市民の方でそういったスキルを持った方、ハイスペックな方が来ていただくこともあったと思うので。要は、そういった人とうまくそれこそマッチングできれば、出会いの場をつくって、もちろんNPOのボランティア募集というと、現場の募集になりがちなのですけれども、どちらかというと裏方さん募集みたいな、会計とかITのWordの作成とかやってくれる人を募集と、そういうのもうまくつなげられるといいなというふうにつくづく思いました。

では、こちらの列にお願いしていこうと思うのですが、●さん、いかがでしょうか。

○●委員 申請書類が面倒だからという、現実的にすごく多いと思うんです。でも、それもハードルで、それを取っ払ってしまうと、今度は申請団体も多くて、それを絞るのに困るというようなことが起きるかどうかわからないけれども、基本的には年数を区切って、何回と区切って、次の団体に移していく。

いろいろな団体が申請して、いろいろな団体がやれるのがいいと思うので、本質的な方向はそれでいいと思うのですけれども。例えば、ずっとこのところ申請しているステップさんのように、非常に重要な仕事で、いくらお金があっても足りないような、こういうところには、何らかの形で補助が続けられるような協力というか、これが終わっても、別のこういう補助金もありますよとか、そんな補助をしていってあげたらいいのではないかと思います。

それから、まちサポの連携、特にこれから若者たちを取り込んでいくというか、一つは、やはり学生だと思うんですね。白井市内には大学がないけれども、近くの大学もありますし、白井高校なんかは、最近白井駅のあそこがコロナで中止になってしまって、その後、自分たちがやるというようなことで、これはもちろん管理職の補助があってなのですけれども、体制としては、高校生が自分で考えて、自分たちのイベントをやるような方向で

考えているということなので、そういう若い人たちが頑張っているところを、すぐPRしてあげるとか、本当に高齢者から若い人たちへシフトさせていくというのが非常に急がれている問題だと思いますので、現実的にコーディネートなり、連携をさせていかなければいけないなと思うんですね。

こういうのも、私がちょうど白井高校に行く用事があって、そこで直接聞いたから、そういう情報が分かったのですけれども、今度は、そういう情報をほかのところでも伝えられるような、そんなふうにして、うまく情報を集めて、ここでも、あそこでも、若いそういう動きがあるのだなと、それを盛り立てる。若い人でも、これだけやっているんだな、できるんだなというような感じで。

私も協議会を担当していて、今PTAというか、要するに保護者ですね。特に今、現実的には、お母さんが多いですけれども、そこに働きかけることによって、何かのイベントのときに、お母さんたちが非常に協力してくれるようになると、そうすると、子供たちがほとんど、この前のイベントで来たんですね。

そうすると、そういうところから保護者の年代のそういう人たちが、こういう活動だったら非常に参加してくれるんだなというようなことで、これもまた一つの方法というか。いわゆるPTA活動は面倒くさいということで問題がありますけれども、地域を盛り立てるための若い世代の活用というようなことで、そうすると、こういうのもあるし、高校生やあるいは中学生の活用もあるし、それに近隣の大学が応援してくれるとか、そうすると、そういう若いあれが出てくるのではないかなと思いますので。そういうのは一つ、まちサポの役目かなとも思いますので。指定管理にはなったということは、自主的ないろいろなそれができるということだと思いますので、そこはやはり一つの責任じゃないかなと思います。

補助金の問題に対しても、どうしても何か制限みたいな、枠みたいなものがあると思うのですが、それを感じて、途中でストップしてしまうというようなことがあると思うのですけれども、そういうことを言っていられない時代に、まちづくり自体も、市のほうの予算がいつかはなくなるから、自分たちでやっていかなければ駄目だよという、そういう動きだと私は思っているのです、そういう現実的な機運を考えた行動を取っていくのが、これからの市民活動ではないかなと思います。以上です。

○委員長 ありがとうございます。

●さん、お願いします。

○●委員 6年度に関しては、このままで、おっしゃったとおりでいいかと思いますが、先ほど皆さんからも御意見あったように、ステップさんなんか、今後どうするのかということで、この間、ここにいらっしゃったときも、どうしていいのか自分でもよく分からないということで、すごく悩んでいらっしゃったので、そこを何とかサポートできるような体制を市とまちサポで取っていただけると。例えば回数を増やすということを決めるのは

大変かもしれないのですけれども、来年に関しては、こういうふうな形ではどうでしょうかみたいなアドバイスのことで、継続できるようなサポートがもしあればいいのではないかなというふうに思っています。

やはり年代が、皆さんもおっしゃっていたように、70代、80代の方がすごく活動されている方が多いということで、私ももう中年なのですけれども、すごい若手にされているわけですよ。自分が活動している、団体だったり、いろいろな活動をしているのですけれども、すごい若手として期待されているのですけれども、中年なので、仕事をした上でプラスアルファで動かなければいけないので、結構きついんですね。

何だかんだとって、いろいろなものを引き受けてしまって、本当に半年に1回ぐらい、ぶっ倒れています。あまり皆さんに御迷惑をおかけしないようにと思っはいるのですけれども、ただ仕事をしながら、ほかの活動も月1なり月2なりというのをいろいろな活動団体で幾つかあって、それをこなしていくと、ほとんどカレンダー毎日、土日も埋まってしまって、私は独り者なのですけれども、旦那がいたら多分切れられるだろうなというぐらいな感じなので。1人でよかったのかどうかは別としてですけれども、今は子供たちも大きくなって、2人とも成人しているので、大きくなったので、そこができれば、できるんですけれども。

ちょっと歳の離れた上の方と話がかみ合わなかったり、それをまとめたりするというのも、この中年にかかってくるので、これよりも若い子たち、高校生とか大学生とかという子たちを入れてくると、ワンクッション中年がいなくて大変なことになってしまうので、割と重宝されているんだらうなと思ながらも、この世代で、こういった活動団体というのをやろうと思うのは、多分少ないと思います。

なので、もうちょっと年齢が上がって、65歳以上ぐらいの方たちが、次、何やろうかなというので、どうしてもこういう状態になってしまうというのは致し方ないのかなというふうには思っています。すみません、関係のない話で。以上です。

○委員長 本当に、委員会でも恐縮なんですけれども。ありがとうございました。

皆さんの御意見をまとめますと、令和6年度については、おおむね改善できるところは改善はするけれども、大枠としては、今年度と同様の形で実践すること自体には御異議はないということだと思いますので、それはそういった方向でいければなと思います。

一方で、何回も団体名として出てきましたステップさんをはじめとして、いわゆる出口戦略をどうするのかとか、上限額どうするのかとか、●さんからもありましたけれども、まだ論点がまとまっていないといえますか、補助金の制度自体については、必要に応じて、事務局と私のほうとか、ある程度、どこをどう変えていくという論点があるのかを整理して、また、と言いつつ、実は、次回が今期の委員の皆さんの最後になってしまうので、次の委員への宿題にはなってしまうかもしれませんが、継続的に検討していこうというのが、補助金に関しては、そこでよろしいのかなと思いました。

一方、補助金外のまちサポさんへの期待が大きくて恐縮なのですが、いろいろとやれることについては、別に補助制度とは切り離して随時対応していこうということで、皆さんからもいろいろとアイデアもありましたので、できることは対応していただければなと思っています。

私からも、全国の状況を調べていて思うのは、白井市さんも担当部局にいろいろ振ってきていて大変だと思うのですが、まちづくり協議会の話とか、政府のほうで言うとRMOと言うのですが、地域運営組織。総務省とか官房とかがやれやれと言っているやつですね。

もあれば、もう一つ、何回か言った気もしますけれども、部活動の地域移行という話があって。今、若者というお話がありましたけれども、例えば、主に話題になっているのはスポーツ系といいますか、体育系の部活動移行。例えば、バスケットボール部どうするのとか、野球部どうするのとか、地域の総合型連携入れましようか、スポ少でやるかみたいな話になっていますけれども、同時に文化部も移行されるんですね。

白井市の状況は分かりませんが、文化部で例えば、私の二十数年前の中学校時代を思い返すと、あったんです、ボランティア部とか、そういう社会活動系の部とかもあると思うんですよね、もしかしたら。そういう研究系の部活とか、文化系の部活ですね。そういった部活動の受け皿として、何か例えば市民活動団体の人たちとうまくマッチングできたりとか、あるいは、先ほど白井高校のお話がありましたけれども、最近、高校生によるNPO法人設立というのも増えていて、本当に希望を感じるんですね。各地でいろいろなところで、高校生たちから自分の地域を良くしようとか、神楽を、お祭りを継承していこうとか、世の中捨てたものではない。

そういう本当にたくましい高校生たちが、自分で団体を立ち上げるみたいな事例も増えてきているので、せっかく近いところにいらっしゃるわけですから、何かコラボプロジェクトみたいなもの、まず一つやってみるといのは大きいと思いますし、何なら、この委員会に高校生が来てもいいわけです。審査員というか、我々と同じ委員で。

そうなってくると、先ほど●さんのお話でもありましたけれども、そもそもの平日の昼間にやっていること自体の是非とかというのも出てきて、どうしてもお仕事を抱えている方なら、有給を取って御参加いただかなければいけないわけなので、夜やりますかとか、それはそれで、夜やると参加しづらい方も出てきてしまうので、難しいところではあるのですが。

これまでの日本の社会で当たり前としてやってきた、ど平日に会議をやるというものも、そういうこともできなくなってくる社会になるかもしれないので、ちょっと頭を柔らかくして、いかに市民活動とかNPOの活動を進めていくかと。日経の記事もお配りしましたけれども、すごい白井市、先進地なわけなので、何か課題に、課題の最前線でなかなか答えがなくて困りますけれども、これも試行錯誤していくしかないと思いますので、ぜ

ひ皆さんと一緒に悩んでいければなと思っております。

何か最後にコメントとか、言いたいことがある方いらっしゃいますか。

●さん、どうぞ。

○●委員 この前の日曜日に、そこのアモールケアという施設に、夏祭りでボランティアさんが行くということで、私、見に行ってきました。久しぶりにお会いしたボランティアさんがいて、その方お二人、男性と女性がいて、歌のボランティアグループなのですが、オーケーズというボランティアグループで。85に迫る方がお二人、歌を歌ったり、ハワイアの踊りを踊ったりしているところを拝見してきて、すごいなというのと。

どちらかという、若い人にどんどん参画してもらいたい、地域活動に参加してもらいたいという機運はあるのですが、一つ、高齢者の方が地域で活躍するというのは、要介護状態にならないためにも大事ですし、すごく素晴らしいことだと思って、生きがいだったり、健康だったり、そういったものを自分で管理しながら活動できる地域というのは素晴らしいなということで、若い方の参画もどんどん求めつつ、高齢者の方も応援していきたいという感想は、そのとき持ちました。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。もちろんメインターゲットとして期待していますから、高齢者の方。

私の印象としては、とにかくグリーンレンジャーさんが全員80代ですっていう。80ですよ、たしか。あれはなかなか衝撃的だったのですけれども。本当に、あまりジェンダーの話をここで言うのはあれかもしれないのですけれども、特に男性は役割を持って、自分が社会とつながっているというか、仕事があるという、それは有償か、無償かというのは、私はあまり関係ないのではないかなと思っていて。

そういった意味でいうと、今、●さんがおっしゃったとおり、国のほうでも、対策のゼロ次予防、社会的処方とかとあって、そういった地域活動によるフレイル予防とかも、これもさんざん論文でも相関関係というのが証明されているので、やはり市民活動とか、こういった活動が豊かだと、結果として介護保険の例えば費用もかからなかったりとかとあって、みんな健康で元気だと、みんなハッピーというのがほぼほぼ実証済みですので。こういった小さなグリーンレンジャーさん、何回も出して恐縮なのですが、グリーンレンジャーさんが頑張ることで、直接的に公園がきれいになるということ以外に、様々な副次的な効果があるから、私の印象だと、あの団体さんへの7万円とかは、本当に元が取れるという話なんですけれども、投資効果が非常に大きいということも思っていますので、基本的に皆さんの中から、もうちょっと厳しくせいみたいな、後ろ向きと言っては失礼ですけれども、そういった御意見はなかったと認識していますので、何とか、もちろん財源は限られてはいますけれども、限られた中で努力できればなとも思いましたということで、よろしいですか。

-----事務局説明-----

○委員長 ありがとうございます。まず、昨年度はコロナもまだありましたので、書面ベースで終わってしまったのですけれども、先ほどのアンケートとか追加ヒアリングでもあったとおり、団体さんはつながりを求めているということなので。コロナでなかなか他団体とのつながりもつくりづらかったということもあると思うのですが、取りあえず中間ヒアリングは、座談の形式でやることは、もう告知済みだということで確定事項で。その中で2時間でしたか。

○事務局 2時間です。

○委員長 2時間の枠があるので、もし委員の皆さんから、こういうことをやったほうがいいのではないかとか、こういうことを聞いたほうがいいのではないかと、この参考資料で配っているもの以外で何かあれば、コメントを頂きたいということなのですけれども、何かございますでしょうか。

これは、せっかくだから、でも、センシティブな内容とか扱うのですか。

○事務局 そんなに。

○委員長 ないですよ。

○事務局 はい。

○委員長 ないのであれば、例えば補助金申請を考えている団体さんとかは、オブザーバーで聞いてもいいよとか、そういうのも一つの手かなとは思いましたが。次年度以降ということでもいいと思うのですが、何かとつながりを求めているのであれば、一堂に会す機会があれば、問題がないのであればオープンにしていくということで御検討いただければなと私は思いました。

何かありますか、皆さん。よろしいですか。

●さん、どうぞ。

○●委員 資料2にあるような追加ヒアリングで出てきた報告ですよ。そういったことに関しては、ぜひ織り込まれるとよろしいのではないかなというふうに思います。

特に、私も先ほど申し上げたまちサポの関係のところは、ニーズと期待がかなり高まっている感じなんですね。ですので、まちサポの運営、例えば調査研究だったり、ファシリテート業務だったり、そういったところに関心のある団体さんといいますか、自分のところにも返ってきますので、やはりメリットは、そういったことというのはあるのではないかなというような気もしておりますので、この辺、何か話題に出されてもいいのではないかなと。

1 団体の取組を進化していくためには、他団体との連携であったり、幅広くいろいろな

方々と共同連携していくということが、非常に有効だというのは見えてきていると思うんですよね。活動が展開していくと。

そうすると、他団体との共同連携を促進していくようなことに、自分たち自身も積極的に関わっていくというようなところへの動機づけというのは、仕掛けていくというのも、すごく有効ではないかなと思いますし、まちサポの限られた個人的、いろいろな資源を凌駕するような、いろいろな応援隊をゲットしていくことにもつながっていくと思うので、一石二鳥だったり、三鳥だったりとかすると思うんです。私自身の経験がそうでした。

ですので、そういったようなことを話題として特に出されると、いいのではないかなと、どんな感触なのかなというところを踏まえてといたしますか、認識する上でもというふうに思いました。以上です。

○委員長 ありがとうございます。中間ヒアリング的な要素からすれば、補助制度の進捗確認では、一応やると。やるはやるとして、もうちょっとサブ的なテーマとして、せっかく同席もいただくので、まちサポを使って、会場として使ってくださいとか、ざっくりばらんな意見交換をしていただくのと、それこそ例えば、まんぷく食堂さんとかだったら、●さんという、すごい何でもできる人材がいますよみたいな。

つまり、うちの団体には、変な人身売買みたいになってしまうとあれなのですけれども、こういう人材がいます。例えばチラシのデザイン得意な人がいますとか、ITに強い人がいますとか、英語できる人がいますとか、いろいろいるじゃないですか。団体の中に、人材とは。

そういうのを例えば、もし白井市の市民活動の中でお困りだったら、うちにはこういう人がいるので声をかけてくださいみたいな、お互い、困ったときはお互いさま、助っ人リストとか。

これは別に団体だけではなくて、本当は市民の人でそういうスキルを持った人がいるのであれば、まちサポに登録しておいてもらって、何かお仕事依頼というか、SOSが来たら、その人に。個人情報とかあるので、例えば、まちサポさんを介して連絡するとか、そういういわゆる人材バンク的なのができたりすると、助かるかなみたいな気もしましたが。だから、それは補助金のことはやっていただくとして、まちサポさんのブラッシュアップの場としても使っていただきたいということですかね。

○●委員 そういったいろいろな得意技を持った市民の方々、団体も含めてですけれども、いろいろな人事交流ではないですけれども、協働していくのに、地域通貨なんかも絡めてやっている地域なんかもあります。私もこの間、関わった経験があるのですけれども、結構成功している節があります。今、本当にお金の補助金の話だけでしたけれども、そうではない地域通貨的な、あれはお金というよりは、つながりの中の協働の助け合いのものを通貨というふうに言っているだけですけれども。

そういった目に見えない、金銭的なものでは計れないような、だけど、疑似的な金銭的

なものを導入してやるという手法もあるので、そんなこともちょっとあるのかなというふうに思いました。情報提供までです。

○委員長 ありがとうございます。なので、もちろん近々の目の前の課題をやっていくのもそうだし、今、言ったような結構壮大なスケールのそういう、ある意味、半分、妄想でもいいのですけれども。マイナンバーカードに連動して、それこそWAONとか、イオンさんは、ポイントでピッとやると、介護体操をやれば10ポイントたまってとか、NPO活動に参加すると100ポイントたまってとか、うち、市原市でもやり始めているのですけれども、そういう推し活ポイントみたいなやり始めているのですけれども、そういったポイント制度の導入とかも、いわゆる典型的な一つの市民活動支援メニューの一つとしても、自治体にも普及が進んでいるので。別にこれ、今すぐやれという話ではないですが、そういうのも、何でも押し付けて申し訳ないのですが、市のほうでも検討いただくとして、別に、まちサポさんの調査研究の一環として、白井市に市民活動支援策として、例えば、どんなことが可能性があるのかなというのも、情報収集の一環でまとめといていただけると、また発想も広がるのかなというお話でした。

ほか、いかがですか。よろしいですか。

では、中間ヒアリングについては、今、御意見もあったとおり、まちサポさんのことも、ぜひサブという形で盛り込んでいただくということでお願いいたします。

では、最後、続いて、次回の内容というか、予定のアナウンスをお願いいたします。